

平成26年度医師会立訪問看護 ステーションにおけるIT化に関する 調査について

東京都医師会
医療情報検討委員会

問1: 医療関係者や患者・家族との連絡に用いている通信手段の比率について

	医療関係者	患者・家族
固定電話	56.6%	53.4%
携帯電話	17.5%	18.4%
FAX	33.1%	2.5%
郵送	20.2%	1.6%
直接訪問	13.0%	42.5%
連絡ノート	7.7%	27.4%
メール	5.2%	2.8%
連携連絡ツール	1.3%	0.4%
その他	0.5%	3.0%

問2: 訪問看護の現場における通信 IT機器の使用状況について

普通以上に使われている通信・IT機器の比率

1. パソコン(20)	60.6%
2. タブレット端末(4)	12.1%
3. スマートフォン(11)	33.3%
4. 従来型携帯電話(29)	87.9%

問3: 使用している主なシステム(ソフトウェアやサービス)とその用途について

看護業務・業務管理系システム

ワイズマン(15)、コスモス(コンダクト)(4)、
カナミック(3)、 介護の森(富士通)(2)、
ライフウェア(2)

連携連絡業務系システム

カナミック(5)、サイボウズ(2)
メディカルケアステーション(2)
介護の森(1)、Dell(1)、独自開発SNS(1)

問4: ITを利用した連携連絡ツールの 利用状況

カナミック

サイボウズ

メディカルケアステーション

問4: ITを利用した連携連絡ツールの 利用状況

カナミック

サイボウズ

メディカルケアステーション

LINE ×

問5：実際にITを使って良かった活用例

1：時間的メリット→労働時間短縮、経費削減

訪看での残務が減少した

訪問先への直行・直帰が可能

申し送り時間の短縮

2：情報活用メリット

事前・随時情報収集・共有が可能

→緊急の夜間訪問時に特に安心

医師との情報共有が可能で患者さんの状態の把握や

治療方針・家族への説明状況などが判り有用

3：省エネメリット

紙ベースの記録が減少し省エネ化ができた

問6: 訪問看護において今後ITを活用できること、活用したいこと

- 1.遠隔部での情報共有・交換
- 2.GPS機能(訪問状況の把握)
- 3.多職種との情報共有
- 4.画像データの共有による治療の円滑化(褥瘡等)
- 5.内容の濃い連携と充実した在宅医療

* 障害となるもの

- 1.ITスキルの欠如→教育の機会・時間の確保、指導人材の育成、簡単なシステムの開発
- 2.コストパフォーマンス→無料ソフトの活用・開発
- 3.システム間の不連動→連動ソフトの開発、

まとめ

- 1: 訪看で使われている通信手段は固定電話が最も多く、次いで医療関係者にはFax・郵送が患者・家族には直接訪問・連絡ノートが使われている
- 2: 使用されている通信・IT機器はPC・携帯電話が主で、タブレット端末やスマートフォンの使用は少ない
- 3: 看護業務・業務管理系のシステムはほとんどの施設で使用されているが、連携連絡業務系のシステムは3割強の施設で使用され、カナミック、サイボウズ、メディカルケアステーションなどであった。
- 4: 訪看でのIT化により勤務時間短縮、訪問看護の質の向上、職務への安心感、資源節約等の時間的・情報活用・省エネメリットが報告された。
- 5: タブレット端末・スマートフォンなどによる業務のIT化により内容の濃い連携と充実した在宅医療の実現が可能である。その為にはITスキル向上、コストパフォーマンスが良く簡便で使いやすいシステムの普及が求められる。